

教科名	国語	科目名	古典講読
履修単位	履修条件(学年・コース・選択等)		
2単位	3学年 人文理数(文系コース)		
使用教科書	補助教材など		
新古典講読(右文書院)	なし		
科目のねらい	古典としての古文と漢文を読むことによって、我が国の文化と伝統に関する関心を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。		
授業計画と授業の内容			時数
1 学 期	『古今著聞集』『母子猿』、『沙石集』『児の飴食ひたること』、『十訓抄』『文字一つの返し』 平易な文章を自力で読めるようになる。その過程で、古文の面白さを感じ取れるようにする。重要古文単語の確認を改めて行なう。		10
	<1学期中間考査> 「矛盾」、「五十歩百歩」、「孟母三遷」 基本的な教材を用いることで自分で書き下し文、解釈ができるようにする。同時に重要な句形についても整理する。		12
2 学 期	『徒然草』『後徳大寺の大臣の』、「神無月のころ」、「五月五日、賀茂のくらべ馬を」、「仁和寺にある法師」 同じ作品を読むことによって、その織り成す世界に触れる。		18
	<2学期中間考査> 「蛭雪」、「守株」「嬰逆鱗」 普段、用いてることばの由来が古典にあることを学び、より身近な存在であることを意識化する。短文は書き下しと同時に並行で内容理解を行なう。		20
3 学 期	『徒然草』『高名の木登り』、「大事を思ひたたん人は」 わからない単語や文法事項に固執せず、類推等からマクロな視点での読みを行なう。 <学年末考査>		15
評価の観点		留意事項	
下記を総合的に考慮して評価を行う。 ①定期考査(中間・期末考査) ②不定期に実施するテストなど (小テスト・課題テストなど) ③提出物(長期休業中及び随時) ④授業態度・出席状況など		上記計画は事情により変更されることがある。 本文の通読、口語訳を作るという予習なくして授業に出席することがないようにする。	